

# 平成29年度 事業報告書



# 【 I 】 事業団総括

## 1. 概要

近年の少子高齢化の急速な進行等、社会経済情勢の目まぐるしい変化により、福祉を取り巻く環境も様々な制度の改正等、非常に厳しいものとなっており、事業団には、自主性・自立性が発揮できる柔軟な法人経営と、利用者ニーズに応じたきめ細やかな福祉サービスの提供が求められている。

平成29年度においては、平成33年度までの5年間の第2期中期経営計画を策定し、第1期中期経営計画の中で明確にした理念や基本方針を踏襲した上で、個々の課題について達成目標を掲げ、そのための実施内容も明記した。

また、平成30年度に新設される下関市中央こども園に「こども発達センターどーなつ」が併設されることにより、こども発達センター等の指定管理期間が変更され、改めて平成30年度から5年間の指定管理者としての指定を受けた。

## 2. 役員等に関する事項

定数 理事7人 監事2人 評議員8人

## 3. 平成29年度理事会の開催状況

回	年月日／開催場所	審 議 内 容	出席者数
1	平成29年6月1日 本部事務局	議案第1号 平成28年度第1回補正予算の一部変更について 議案第2号 平成28年度事業報告及び決算の承認について 議案第3号 役員等の報酬等及び費用弁償規程 議案第4号 役員候補者の選出について 議案第5号 評議員候補者の選出について 議案第6号 定時評議員会の開催について 議案第7号 評議員選任・解任委員会の委員の選任について 議案第8号 評議員選任・解任委員会の会議の開催について 議案第9号 下関市陽光苑デイサービスセンター指定地域密着型通所介護事業運営規程の一部を改正する規程 議案第10号 下関市陽光苑デイサービスセンター指定介護予防通所介護事業運営規程の一部を改正する規程 議案第11号 下関市陽光苑デイサービスセンター指定介護予防・日常生活支援総合事業（生活維持型）運営規程の一部を改正する規程 報 告 理事長の職務執行状況について等	理事 5人 監事 2人
2	平成29年6月15日 本部事務局	議案第12号 理事長の選定について 議案第13号 常務理事の選定について 議案第14号 役員等の報酬等及び費用弁償規程の附則の変更について 議案第15号 福祉型児童発達支援センター運営規程【はたぶ園】の一部を改正する規程 議案第16号 指定児童発達支援事業運営規程【下関市こども発達センターどーなつ】の一部を改正する規程	理事 7人 監事 2人

		議案第17号 中期経営計画について 報 告 社会福祉充実残額の算定結果について	
3	平成29年10月16日 書面議決	議案第18号 下関市こども発達センター等の指定管理者の応募について 議案第19号 苦情解決第三者委員の選任について	理事 7人 監事 2人
4	平成29年11月16日 本部事務局	議案第20号 文書事務取扱規程を改正する規程 議案第21号 職員の育児及び介護休業等に関する規程の一部を改正する規程 議案第22号 経理規程の一部を改正する規程 報 告 理事長の職務執行状況について等	理事 7人 監事 2人
5	平成30年3月15日 本部事務局	議案第23号 平成29年度補正予算案について 議案第24号 組織規程の一部を改正する規程 議案第25号 給与規程の一部を改正する規程 議案第26号 旅費規程の一部を改正する規程 議案第27号 理事長専決規程の一部を改正する規程 議案第28号 下関市陽光苑デイサービスセンター指定地域密着型通所介護事業運営規程の一部を改正する規程 議案第29号 下関市陽光苑デイサービスセンターにおける介護予防・日常生活支援総合事業の指定第1号通所事業運営規程 議案第30号 児童発達支援下関市こども発達センターどーなつ運営規程の一部を改正する規程 議案第31号 経理規程の一部を改正する規程 議案第32号 指定多機能型事業所運営規程【下関市こども発達センター豊浦分室】の一部を改正する規程 議案第33号 特定個人情報等取扱規程の一部を改正する規程 議案第34号 嘱託職員等就業規程の一部を改正する規程 議案第35号 平成30年度事業計画及び予算案について 議案第36号 施設長の選任について 議案第37号 評議員会の開催について 報 告 下関こども未来創造ネットふくふくこども館運営規程の一部改正について	理事 7人 監事 2人

### 3. 平成29年度評議員会の開催状況

回	年月日／開催場所	審 議 内 容	出席者数
1	平成29年6月15日 こども発達センター	議案第1号 平成28年度第1回補正予算の一部変更について 議案第2号 平成28年度事業報告及び決算の承認について 議案第3号 役員を選任について 議案第4号 役員等の報酬等及び費用弁償規程 報 告 中期経営計画について（総評）	評議員 8人
2	平成30年3月23日 社会福祉センター	議案第5号 平成29年度第1回補正予算案について 議案第6号 平成30年度事業計画及び予算案について	評議員 8人

#### 4. 福祉サービスの苦情解決に関する第三者委員の会議開催状況

回	年月日／開催場所	審 議 内 容	出席者数
1	平成30年2月23日 こども発達センター	(1) 施設見学 下関市こども発達センター (2) 各施設の苦情受付状況とその対応について (3) その他	委員 4人

#### 5. 施設連絡協議会の開催状況

回	年月日／開催場所	協 議 内 容
1	平成29年4月5日 こども発達センター	協議1 指定管理の切り替え（4施設） 協議2 決算理事会、定時評議委員会、新理事会スケジュール 協議3 中期経営計画策定
2	平成29年5月24日 梅花園	協議1 今後の会議のスケジュール確認 協議2 理事会及び評議員会での報告の方法について 協議3 出勤簿の記入例について
3	平成29年6月23日 陽光苑	協議1 中期経営計画について 協議2 法人合同研修会の実施について 協議3 事業団が期待する職員像について
4	平成29年7月26日 本部事務局	協議1 研修時の私有車両使用について 協議2 研修手引きワークシートによる意見交換 協議3 市との意見交換を終えて
5	平成29年8月23日 こども発達センター	協議1 市との協議案件（こども発達センター、梅花園） 協議2 私有車両使用のルール決め 協議3 中期経営計画の半期報告について
6	平成29年9月20日 梅花園	協議1 私有車両使用のルール決め（最終案） 協議2 合同研修の時期と内容について 協議3 事故発生時の施設の具体的対応について
7	平成29年10月27日 陽光苑	協議1 中期経営計画の半期報告について 協議2 自己申告書について 協議3 正規職員の募集について 協議4 障害者雇用について 協議5 文書取扱い規程の一部改正について
8	平成29年11月24日 本部事務局	協議1 自己申告書の提出について 協議2 無期転換申込みに伴う準備について 協議3 平成30年度事業計画及び予算の作成について
9	平成29年12月20日 こども発達センター	協議1 無期転換申込みに伴う準備について 協議2 障害者雇用について 協議3 資格取得支援制度について 協議4 利用料の口座振替について
10	平成30年1月17日 梅花園	協議1 資格取得支援制度について 協議2 無期転換申込みに伴う準備について
11	平成30年2月21日 本部事務局	協議1 パート職員の交通費支給について

12	平成30年3月28日 本部事務局	協議1 嘱託職員の処遇について（こども発達センター） 協議2 ふくふくこども館長の連絡協議会への出席について
----	---------------------	---

6. 職員に関する事項（平成30年3月31日現在）

（単位：人）

区分	本部	センター	豊浦分室	診療所	梅花園	陽光苑	こども館	合計
事務局長	1 (1)							1 (1)
施設長		1 (1)			1 (1)	1 (1)	1 (1)	4 (4)
診療所長（医師）				1				1
事務員	3	1		1 (1)	1 (1)	1 (1)	5 (5)	12 (8)
児童指導員		4 (3)	1					5 (3)
生活相談員 生活指導員					1	6		7
保育士		23 (19)	5 (5)				5 (5)	33 (29)
相談支援専門員		1						1
相談員		1 (1)					2 (2)	3 (3)
作業療法士		1						1
理学療法士		1 (1)						1 (1)
言語聴覚士		1						1
臨床心理士		2		2 (2)				4 (2)
言語指導員		1 (1)						1 (1)
介護職員・支援員					10 (5)	24 (21)		34 (26)
看護師・准看護師		2 (2)		1 (1)	2	3 (1)		8 (4)
栄養士		1			1	1		3
調理員		2 (2)			5 (5)	7 (5)		14 (12)
ふくふくこども館 プレイランドスタッフ							3 (3)	3 (3)
自動車運転手		2 (2)						2 (2)
医師		1 (1)			1 (1)	1 (1)		3 (3)
合計	4 (1)	45 (33)	6 (5)	5 (4)	22 (13)	44 (30)	16 (16)	142 (102)

\* ( )は嘱託・パート再掲

7. 収支状況

事業活動による収支差額は、14,466,280円で、施設整備等による収支△5,775,769円、その他の活動による収支△1,896,202円となった結果、当期資金収支差額6,794,309円を次年度に繰り越した。

## 【Ⅱ】法人本部

### 1. 概要

法人全体や各事業の計画的な進行管理を行うとともに、経営の課題や事業運営上の課題について、将来的なリスクを含めた情報の収集や分析をし、理事会、評議員会、施設連絡協議会等に諮った。

また、法人全体の経営に関する事務（経理、定款、規程改廃、監査対応、予算、決算）や、人事や給与に関する事務（給与計算、社会保険等）等の業務を行った。

### 2. 収支状況

事業活動による収支差額は、△23,087,445円、施設整備等による収支0円、その他の活動による収支24,024,301円となった結果、当期資金収支差額936,856円を次年度に繰り越した。

### 3. 業務の実施状況

#### (1) 理事会の開催

平成29年度は、5回開催した。事業報告及び決算、事業計画及び予算のほか、委員の選任や規程の改正、制定などの議案を審議し、すべて承認された。

また、健全な法人経営を継続するため、所要の報告を行うとともに、役員との意見交換に努めた。

#### (2) 評議員会の開催

平成29年度は、2回開催した。役員等の選任、事業報告及び決算、事業計画及び予算等の議案を審議し、すべて承認された。

また、第1期中期経営計画について、平成28年度の実績報告と3年間の計画期間を総評するとともに、事業運営に関わる事項の報告を行った。

#### (3) 福祉サービスの苦情解決に関する第三者委員会の開催

平成29年度は、1回開催した。各施設における苦情解決の体制、苦情や要望への対応、事故の内容及びその対応について報告を行った。

#### (4) 経営基盤の強化

##### ア 施設連絡協議会の開催

事務局、各施設長及び副施設長で、定期的に施設連絡協議会を毎月1回開催し、施設間の連絡調整を図るとともに、運営上の具体的な問題等について協議した。

##### イ 第2期中期経営計画の策定

平成29年度から始まる第2期中期経営計画（5年間）を策定し、理事会で決裁された。個々の課題について達成目標を掲げ、そのための実施内容も明記した。

##### ウ 市長への要望（施設の計画的改修）

市長及び担当部長に対し、老朽化した施設の計画的な改修を要望した。

また、施設の修繕については、各不具合箇所を計画的に実施するとともに、突発的な修繕に対しても、施設予算で対応し利用環境の整備に努めた。

エ 研修会の開催

文書事務及び契約事務に関する実務者研修を行った。

オ 適切な人事配置

正規職員及び嘱託職員に自身の健康状態や職務状況を自己申告させ、職員の意識把握に努めるとともに、適切な人事配置に取り組んだ。

カ 共同事業体代表業務

NPO法人下関子ども子育てネットと共同して、ふくふくこども館の指定管理者の指定（5年間）を受け、初年度の館の運営にあたっては、2者による共同事業体の代表者としてリーダーシップを取り、事業体としての会計事務や契約事務のほか、事業の進捗管理を行った。

(5) 次期指定管理業務への応募

「こども発達センターどーナつ」が、平成30年度に新設される下関市中央こども園に併設されることにより、こども発達センター等の第4期の指定管理期間が変更されたことに伴うこども発達センター等（3施設）の次期指定管理者（5年間）の募集に応募し、12月の下関市議会の議決を経て、指定された。

(6) 地域公益活動協議会への参加

「下関市社会福祉法人地域公益活動協議会」の設立準備委員会に加わり、7月に当該協議会が設立された。当協議会には、役員、運営委員として運営に参加するとともに、会員として「ふくし生活SOS事業」に取り組み、相談員研修会、緊急支援対応研修会に参加した。

## 【Ⅲ】 下関市こども発達センター

### 1. 概要

下関市こども発達センターは、こどもの人格を尊重し、こども一人ひとりに応じた専門療育を行い、「将来にわたって、より健やかに生きていく力」を高め「豊かな人間性」を育てることを基本理念に、福祉型児童発達支援センターはたぶ園を中核として、児童発達支援どーなつや発達支援室等が連携し、適切な早期療育及び家庭支援を総合的に行っている。

### 2. 収支状況

事業活動による収支差額は、13,882,228 円、施設整備等による収支△1,959,152 円、その他の活動による収支△8,206,865 円となった結果、当期資金収支差額 3,716,211 円を次年度に繰り越した。

## 第 1 福祉型児童発達支援センター（はたぶ園）

### 1. 概要

定員 30 人の福祉型児童発達支援センターとして、こども発達センターの理念に基づき、集団保育や個別指導を通して、運動、認知、言語、感覚機能等の発達を促すとともに、食事、排泄、衣服着脱、挨拶等の基本的な生活習慣を身につけ、将来の生活に必要な基礎を育てるための療育を行った。

さらに、発達支援室のスタッフにより、運動機能面や言語面において発達の遅れや障害がある通園児に対して、運動訓練や言語訓練を行うとともに、定期的な発達検査及び保護者に対しての心理相談を行った。

### 2. 通園児の状況（平成 30 年 3 月 31 現在）

#### (1) 年齢別男女別通園児数 (単位；人)

年齢	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	合計
男		7	12	15	34
女		1	3	0	4
計		8	15	15	38

#### (2) 月別通園児数 (単位：人、日)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
初日在籍児数 (人)	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	—
開園日数 (日)	19	20	22	20	19	20	22	20	20	19	19	16	236
延通園児数 (人)	662	688	737	665	654	678	757	670	670	624	506	553	7,864

<参考> 27 年度実績 開園日数 234 日 延通園児数 7,856 人

28 年度実績 開園日数 235 日 延通園児数 7,755 人



29年度実績 開園日数 236日 延通園児数 7,864人

(3) 卒園児等

平成29年度は、15人が卒園し、5人が就園（幼稚園3人、こども園2人）した。

3. 活動の状況

(1) 療育活動の状況

通園児一人ひとりの発達に応じた専門的な支援を行うために、個別支援計画を作成して目標や課題を設定し、構造化による視覚的支援等を取り入れ、個別支援計画に基づいた一人ひとりの発達に応じた療育活動を行った。保護者には、実施した活動の記録を渡し、療育活動の様子を伝えた。また、きょうだい児の支援や父親の会などクラス懇談会、個人面談、家庭訪問、保護者参加の療育活動を定期的に行うことで家庭支援にも力を入れた。

職員の資質向上を図るため、各種研修への参加や、施設内研修や勉強会などを積極的に実施した。

(2) 年間行事等

年 月	行 事 名
29年 4月	入園式、誕生会、はじめましての会、内科健診、園外保育、耳鼻科健診
5月	家庭訪問、誕生会、スイミング開始、眼科健診
6月	保護者参観、誕生会、歯科健診、歯磨き指導、交流保育、保護者交流会 クラス懇談会、バス遠足（こどもの館）、じゃがいも掘り（年長児）
7月	誕生会
8月	夏まつり、きょうだいのおまつり、誕生会
9月	誕生会、総合消防訓練、お買い物体験（全クラス）
10月	運動会、交流保育、誕生会、お買いもの体験（きりん・ぞう・こあら）、 サツマイモ掘り（全クラス）
11月	誕生会、内科健診、眼科健診、耳鼻科健診、交流保育、クラス懇談会、 保護者交流会、給食試食会、歯科健診、父親の会
12月	誕生会、クリスマス会、クリスマスパーティー（全クラス）
30年 1月	誕生会、交流保育、きょうだいのおまつり、外食体験（全クラス）
2月	誕生会、クラス遠足（全クラス）交流保育
3月	誕生会、お別れ会、卒園式、仮入園、お別れパーティー

(3) 地域との交流等

近隣の幼稚園や保育所との交流を行うとともに、夏まつりでは多くのボランティアの参加のもと地域住民との交流を図った。

## 第2 保育所等訪問支援

### 1. 概要

保護者との契約に基づき、地域の保育所や幼稚園、こども園、その他教育機関などに通う子ども達が集団生活に適応できるように、該当施設の担当者への助言等の支援を行う事業を実施した。

### 2. 利用の状況

平成29年度は、はたぶ園から幼稚園へ就園した児童1人の保護者と新規契約を締結し、当該幼稚園を4回訪問した。

### 3. 活動の状況

平成29年度は前年度に比べ当事業を希望する保護者が少なく、実績も前年度に比べ減少した。当事業の意義や効果について利用児保護者への周知が十分でなかった可能性があり、反省点として今後に活かす必要がある。

しかしながら、当事業は、利用児への直接支援だけでなく、訪問先の担当者への助言等を行うため、相当の経験と高いスキルが求められる。このような人材の確保は容易ではないことから、現在の体制では、利用希望者が大幅に増加した場合の対応は、困難となることが必至である。

望ましい体制としては、当事業の専任職員の配置をすることであるが、給付費単価等の採算性の面から、現状としては他部門との兼務体制とせざるを得ない。当事業を実施している全国の事業所の多くが同様の課題を抱えており、より質の高い効果的な支援を確保するため、これらの事業所と情報を共有し合い、引き続き検討を重ねていきたい。

## 第3 地域支援

### 1. 概要

下関市発達支援事業として発達支援室を設置し、療育に関する相談、指導及び助言の業務を行うとともに、こども発達センター内の各事業において理学療法士等の専門職が通所サービスの療育活動や定期的実施している医師、通所サービス担当スタッフとのミーティングやカンファレンスに参加し、他職種間の連携に努めたほか、子ども達の発達の状態について、多面的に評価し、療育支援の一助とした。

利用者に対しては、こども発達センター内の療育や相談に応じたほか、障害児の発達支援に関する情報提供を行った。

そのほか、今年度は、関係機関との連携や啓発に関する事業として例年行っている市内の幼稚園、保育所、こども園、保健師との発達支援連絡会とスクラム下関が合同で支援者養成の研修会を実施したほか、家族や関係者向けの保護者研修会の実

施やボランティア研修会の講師を担った。

## 2. 活動の状況

### (1) 下関市発達支援事業の各部門の業務

#### ア 心理部門

臨床心理士が携わる心理部門の業務では、はたぶ園、どーなつ、母子通園訓練事業、その他相談や外来等のケースにおいて、他職種と連携し、子ども達の総合的、多面的な評価に努め、チームで支援にあたった。また、利用者のニーズに応じ、他部門の職員と連携し、発達相談や育児相談、カウンセリング等を行った。

そのほか、診療所にて発達検査を実施した。また、関係機関への訪問や来所による施設支援を行った。

#### イ 言語部門

言語聴覚士及び言語指導員が携わる言語部門の業務では、はたぶ園、どーなつ、母子通園訓練事業との連携（個別支援計画、療育活動への参加、コミュニケーション支援）を図り、子ども達や家族への支援を行った。

また、外来利用の子ども達一人ひとりのニーズに応えた個別指導を行い、子ども達の発達の状態を診療所医師や他職種と連携し、多面的に評価しよりよいコミュニケーション支援に努めた。

#### ウ 理学療法・作業療法部門

理学療法士及び作業療法士が携わる理学療法・作業療法部門の業務では、はたぶ園、どーなつ、母子通園訓練事業との連携（個別支援計画作成、運動あそびや食事等療育場面での支援等）を図り、両専門職が核となり保育部門と一体となって子ども達や保護者への支援を行った。また、関係機関への訪問や来所による施設支援を行った。

これらに加え、外部研修や施設内研修、専門職同士による勉強会を行い、こども発達センター職員の個別指導の技術、知識向上、支援方法の統一化を図った。そのほか、こども発達センター診療所医師や他機関訓練担当者との連携を図り、療育活動へ反映させた。また、はたぶ園通園児の補装具の調整を業者と共に年2回実施した。

### (2) 下関市障害児（者）療育等支援事業の活動

#### ア 在宅支援訪問療育等指導事業

施設に通うことが難しい重度心身障害児の在宅支援（療育、訓練など）を行った。また、家庭訪問し、住宅改造（リフト、浴槽改造など）に伴う助言を行った。

#### イ 在宅支援外来療育等指導事業

理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士等による個別の訓練指導を行った。また、はたぶ園の利用児以外の児童に対して嘱託医による健康診査

を行った。

#### ウ 施設支援一般指導事業

利用児が通う幼稚園、保育所、こども園、学校等に対し、訪問又は来所による支援を行った。さらには、障害児保育を行う保育所等の職員からの相談に応じるとともに技術指導を行った。

#### エ 支援実績（平成 30 年 3 月 31 日現在）

事業名		指導先件数（件）	延回数（回）
在宅支援訪問療育等指導事業		2	2
内 訳	巡回相談	2	2
	訪問による健康診査	0	0
在宅支援外来療育等指導事業		2,307	3,201
施設支援一般指導事業		80	118
合計		2,389	3,321

## 第 4 障害児相談支援・特定相談支援・一般相談支援

### 1. 概要

児童福祉法による障害児相談支援並びに障害者総合支援法による特定相談支援及び一般相談支援として、医療機関や保健所、幼稚園、保育所又はこども園から紹介を頂いた方に対し、相談内容に応じて療育機関の情報提供や将来に向けての助言、医療的な支援の必要性について説明を行い、障害福祉サービスの利用を希望する障害児（者）に対し、サービス等利用計画の作成を行った。

受託事業では、下関市から受託した下関市障害者相談支援事業である下関市自立支援協議会の業務として相談部会とこども部会事務局会議等に出席し、支援が必要な大人や子どもを取り巻く環境改善に取り組んだ。

また、山口県から受託した発達障害児地域支援体制強化事業に取り組み、ペアレントメンターの養成やペアレントメンターとともに研修参加やグループ相談の調整等の活動支援を行ったほか、今年度から地域支援担当スタッフやはたぶ園担当スタッフを交えたチーム体制で、支援者養成研修として、地域の保育所等の職員のうち希望者を対象としたティーチャーズトレーニング事業（基礎編、実践編）を実施した。

その他、障害児支援に係るボランティア育成のため研修会を開催した。

2. 活動の状況

(1) 障害種別実績

(単位：人)

相談者数		相談者数	内 訳							合計
			身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他	
障害者	実人数	37	9	2	25	2	16	0	1	55
	延人数	640	254	78	444	18	226	0	2	1,022
障害児	実人数	724	36	30	379	0	583	0	35	1,063
	延人数	4,686	324	219	3,093	1	3,765	0	104	7,506

(2) 地区別相談者数

(単位：件)

地区別相談者数		内 訳								合計
		本庁	山陽	山陰	豊浦	菊川	豊北	豊田	その他	
障害者	実人数	28	3	5	1	0	0	0	0	37
	延人数	584	22	27	7	0	0	0	0	640
障害児	実人数	249	174	227	27	6	7	5	29	724
	延人数	1,609	1,087	1,551	253	32	20	19	115	4,686

(3) 相談の支援方法

(単位：件)

支援方法	訪 問	来所相談	同 行	電話相談	電子メール	個別支援会議	関係機関訪問相談	その他	合計
件 数	56	1,310	25	3,502	111	132	190	0	5,326

(4) 支援内容

(単位：件)

支援内容	福祉サービスの利用等に関する支援	障害や症状の理解に関する支援	健康・医療に関する支援	不安の解消・情緒安定に関する支援	保育・教育に関する支援	家族関係・人間関係に関する支援	家計・経済に関する支援
件数	5,076	240	330	54	772	92	34
支援内容	生活技術に関する支援	就労に関する支援	社会参加・余暇活動に関する支援	権利擁護に関する支援	その他	合 計	
件数	7	40	8	0	0	6,653	

※障害種別、支援方法、支援内容は重複

(5) サービス等利用計画作成件数

ア 障害児相談支援

(単位：件)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
契約数	8	4	14	3	3	5	6	5	7	20	11	27	113
計画作成	100	34	26	28	32	23	30	37	30	29	24	38	431
モニタリング	6	26	32	31	26	36	16	14	26	23	13	15	264

イ 特定相談支援

(単位：件)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
契約数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
計画作成	3	2	1	1	0	3	1	4	1	8	3	3	30
モニタリング	1	0	8	5	1	3	0	1	0	0	1	0	20

ウ 一般相談支援

平成29年度利用実績なし

(6) ティーチャーズトレーニング

ア 基礎編 参加人数74人

日時 平成29年8月24日 15時～17時

対象 市内幼稚園、保育所、認定こども園、保健師、児童発達支援、  
放課後等デイ職員

イ 実践編 第1クール参加者6人 第2クール参加者8人

第1クール 日時 平成29年10月2日～12月12日 19時～20時半

第2クール 日時 平成30年1月9日～3月20日 19時～20時半

受講延べ人数

(単位：人)

月日	10/2	10/17	10/31	11/14	11/28	12/12	1/9	1/23	2/6	2/20	3/6	3/20	合計
受講者数	6	6	6	6	6	6	8	8	8	8	8	8	84

## 第5 児童発達支援（どーなつ）

### 1. 概要

発達の気になる子どもや障害のある子どもに日常生活における基本的な生活習慣の確立を促し、スムーズに集団適応ができるよう支援した。また、集団保育をベースに、利用児一人ひとりの特性や発達に応じた運動、認知、言語、社会性の発達を促した。

### 2. 利用の状況

(単位：日、人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数	15	20	22	20	19	20	21	20	20	19	19	12	227
延利用児数	240	312	346	308	317	322	336	325	296	275	253	186	3,516
1日平均	16.0	15.6	15.7	15.4	16.7	16.1	16.0	16.3	14.8	14.5	13.3	15.5	15.5
初日契約児数	58	98	99	98	103	104	104	105	105	104	106	105	

参考 27年度実績 開所日数 223日、利用延数 3,332人、1日平均 14.9人

28年度実績 開所日数 225日、利用延数 3,602人、1日平均 16.0人

29年度実績 開所日数 227日、利用延数 3,516人、1日平均 15.5人

### 3. 活動の状況

児童発達支援管理責任者を配置し、利用児一人ひとりに対して個別支援計画を作成するとともに、発達支援室職員と共に継続的な評価等を行い、サービスの充実につながるよう努めた。また、年齢や発達段階に応じたグループ編成をし、より効果的な療育と個々の利用児に必要な支援を適時適切に行えるように努めた。

そのほか、発達障害児に有効な視覚支援である実物、写真カード、絵カード等を活用し、見通しを持ち、安定して過ごせるよう提示するなど利用児に分かりやすく伝え、利用児自らが要求内容を表現し易い手段としてもカードを利用できるようコミュニケーション支援を行った。

幼稚園、保育所、こども園との併用児については、必要に応じて施設への訪問支援を実施した。また、幼稚園、保育所、こども園の担当者がこども発達センターに来所、療育見学の機会を提供し、支援方法についての確認を通じて、保護者への支援方法を含めた情報共有や共通認識の醸成を図った。更に、家庭支援が必要な家庭に対しては、他職種の職員と連携をとりながら、家庭訪問等を実施した。利用児の心の安定を図るとともによりよい支援ができるように努めた。

また、平成30年度からは市立中央こども園併設施設にて活動を展開することとなることを利用者に周知、案内に努めた。

## 第6 母子通園訓練事業

### 1. 概要

母子通園訓練事業（キッズハウス）では、下関市心身障害児母子通園訓練事業として、おおむね3才までの心身障害児や発達の気になる子どもに対して早期療育を行った。

### 2. 利用の状況

(単位：日、組)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開設日数	4	3	5	4	5	4	4	4	3	4	4	4	48
利用組数	25	22	36	34	46	35	37	46	29	36	47	44	437

参考 27年度実績 開園日数 47日 延利用組数 455組

28年度実績 開園日数 46日 延利用組数 477組

29年度実績 開園日数 48日 延利用組数 437組

### 3. 活動の状況

平成29年度も活動の場を市民センターとし活動を実施した。実施日を毎週木曜日とし、概ね3才までの発達障害や発達の遅れが気になる子どもとその保護者を対象に、遊びを通して療育活動を行った。特に、親子での活動を通して安定した母子

関係の基本となる豊かなコミュニケーション力を育てることに力を入れるとともに、保護者が子どもの状態をより把握することで障害や発達の遅れを受容して、愛情と将来の見通しを持って子育てができることを目指して、指導員と各専門職員と連携して支援を行った。

また、ペアレントメンター（障害児を育てた経験のある親）の講座を開催し、保護者が相談できる機会を設けた。

そのほか、少人数でのよりよい療育や母子支援を意図して2グループの隔週利用とするとともに、こども発達センター診療所の医師や理学療法士等専門職との情報交換等の連携に努めた。



## 【Ⅳ】 下関市こども発達センター豊浦分室

### 1. 概要

下関市こども発達センター豊浦分室は、下関市こども達センターの基本理念に基づいて、児童発達支援（豊浦分室）と放課後等デイサービスの事業を行った。

両事業ともに面談を行って利用児や保護者の悩みや思いを知ること、家族を含めた支援につなげるように努めた。

### 2. 収支状況

事業活動による収支差額は、11,981円、施設整備等による収支0円、その他の活動による収支945,180円となった結果、当期資金収支差額957,161円を次年度に繰り越した。

## 第1 児童発達支援（豊浦分室）

### 1. 概要

旧4町地区の発達に気になる子ども達を主な通所対象とする多機能型事業所として、午前中に就学前の児童を対象とした児童発達支援事業により療育を行った。

### 2. 利用の状況

(単位：日、人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数	20	20	22	20	19	20	21	20	20	19	18	19	238
延利用児数	38	42	55	64	61	62	70	80	70	70	69	79	760
1日平均	1.9	2.1	2.5	3.2	3.2	3.1	3.3	4.0	3.5	3.7	3.8	4.2	3.2
契約児数	13	15	16	18	18	18	19	19	20	21	22	16	

参考 平成27年度実績 開園日数 229日 延利用児数 745人 1日平均 3.3人

平成28年度実績 開園日数 233日 延利用児数 736人 1日平均 3.2人

平成29年度実績 開園日数 238日 延利用児数 760人 1日平均 3.2人

### 3. 活動の状況

児童発達支援管理責任者を配置し、就学前の利用児に対して個別支援計画を作成し、それに基づき利用児一人ひとりに適切な支援にあたるように努めた。少人数のグループでのルール遊び、机上活動、感覚を刺激する遊びなど利用児の状態に合わせた設定を行った。また、写真や絵カードなど様々なツールを利用し、意思の疎通や自発的な要求につなげるようコミュニケーション支援も行った。

## 第2 放課後等デイサービス

### 1. 概要

旧4町地区の発達に気になる子ども達を主な通所対象とする多機能型事業所とし

て、午後に学齢期の児童、生徒を対象とした放課後等デイサービス事業を実施した。

## 2. 利用の状況

(単位：日、人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数	20	20	22	20	19	20	21	20	20	19	19	19	239
延利用児数	74	78	107	88	96	88	89	89	83	80	77	76	1,025
1日平均	3.7	3.9	4.9	4.4	5.1	4.4	4.2	4.5	4.2	4.2	4.1	4.0	4.3
契約児数	45	45	46	48	48	49	49	49	49	47	46	47	

参考 平成27年度実績 開園日数 230日 延利用児数 972人 1日平均 4.2人

平成28年度実績 開園日数 234日 延利用児数 1,048人 1日平均 4.5人

平成29年度実績 開園日数 239日 延利用児数 1,025人 1日平均 4.3人

## 3. 活動の状況

児童発達支援管理責任者を配置し学齢児に対して個別支援計画を作成し、それに基づき利用児一人ひとりに適切な支援にあたるように努めた。写真、絵カード、文字等様々なツールを利用して、利用児の主体的な要求や他者との適切なやり取りなど、コミュニケーション支援を行った。

また、放課後や長期休暇の余暇を楽しく過ごしてもらうため、利用児の状況を把握し、興味が広がるような活動を提供することに努めた。

## 【V】下関市梅花園（救護施設）

### 1. 概要

定員60人の救護施設として、身体上または精神上著しい障害があり、独立して日常生活を営むことのできない要保護者に対して、措置機関の委託により、生活保護法第38条の規定に基づいて生活扶助を行った。

平成29年4月は50人でスタートし、年間を通じて入園14人、退園10人となり、月初日平均入園者数は51.9人であった。入園に関しては、精神病院を退院できる状態であるが、単身での生活では様々な不安要素があり、家族の援助も得られないなどの理由が多かった。また、生活が合わず他の救護施設から転園して来られるケースもあった。緊急入所にも柔軟に対応し、1件受け入れたものの、数日間で退園となった。

園で生活をする中で、精神や疾病の状態悪化により入院した方は、月平均で約4.5人であった。2人の方が病状悪化により入院先で亡くなったほか、退院の見込みがなく入院3か月を経過で措置切れとなり2人が退園した。

このほか、介護保険施設へ移ることが望ましいと判断された方には、入院中に退園の手続きを取り、介護認定を受けてスムーズな移行へとつなげた。また、地域へ戻りたいとの強い希望により、3人が退園している。

施設の維持管理については、12月に浴槽内の排水ができなくなったため、急遽、浴槽床タイル及び外部コンクリートを一部切断し、配管の修理と浴槽下の補強を行った。数日間、風呂場が使用できなくなったので、陽光苑の入浴設備を使用することで対応した。また、2月には調理場床の全面張替えを行った際、給湯管の腐食による水漏れが発覚したため、急遽配管の取り替えも行った。施設の老朽化に伴い、給排水関係の不具合が各箇所に生じ、その都度対応をせざるを得ない状況が続いており、苦慮している。その他軽微な修繕にも都度対応し、利用環境の整備に努めた。

### 2. 収支状況

事業活動による収支差額は、6,570,455円、施設整備等による収支△696,600円、その他の活動による収支△5,608,568円となった結果、当期資金収支差額265,287円を次年度に繰り越した。

### 3. 入園者の状況（平成30年3月31日現在）

#### (1) 年齢構成

（単位：人、歳）

年齢	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	合計	平均年齢
男	0	0	1	1	11	13	8	34	61.7歳
女	0	0	0	0	4	7	9	20	69.5歳
計	0	0	1	1	15	20	17	54	64.6歳

※最高年齢：男性77歳 女性88歳

## (2) 在園期間の状況

(単位：人、年)

区分	1年未満	1～3年	3～5年	5～10年	10～15年	15年以上	合計	平均
男	10	5	2	7	3	7	34	8.1年
女	2	1	2	4	4	7	20	18.4年
計	12	6	4	11	7	14	54	12.0年

## (3) 入退園の状況

(単位：人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
月初 在園者数	50	48	48	51	53	54	53	53	53	54	53	53	623
入園者	0	0	4	2	2	0	1	0	1	1	1	2	14
退園者	2	0	1	0	1	1	1	0	0	2	1	1	10

\* 平成28年度 合計 619人 (月平均51.5人) 入園者 7人 退園者 10人

## (4) 障害等の状況

(単位 人)

区分	身体 障害	知的 障害	精神 障害	知的・ 身体障害	知的・ 精神障害	身体・ 精神障害	身体・知的 ・精神障害	その他	障害 なし	合計
男	5	3	12	1	4	2	0	3	4	34
女	1	6	5	0	2	0	0	4	2	20
計	6	9	17	1	6	2	0	7	6	54

## 4. 処遇の状況

個別ニーズに沿ったサービスを提供できるよう個別支援に取り組んでいる。園内及び園外行事については、入園者の意見や要望を取り入れるとともに内容に変化を持たせ、高齢者や身体機能が低下している方に配慮しながら、皆で楽しめる内容となるよう企画し実施した。行事やクラブ活動の実施以外にも、グループで映画鑑賞やカラオケに出かけたり個人外出をするなど、気分転換になったと好評であった。

## (1) 年間行事等

年 月	園 内 行 事		園 外 行 事
29 年4月	焼きそば会	慰問演奏	いちご狩り (26人)
5月			萩方面日帰り旅行 (26人) 妙寺地区清掃
6月	オセロ大会	吉見文化協会慰問	買い物ツアー (31人) 吉見地区ピカピカ大作戦
7月	園内消毒		買い物ツアー、陽光苑夏祭り 川棚温泉日帰り (47人)

8月	盆踊り		
9月		胸部レントゲン 陽光苑合同研修	買い物ツアー（19人） 映画鑑賞（13人）
10月	お好み焼き会	慰問演奏 不在者投票	買い物ツアー（17人） コスモスウォーク（29人）
11月	園遊会 オセロ大会	予防接種 避難訓練	吉見地区文化祭出展及び見学 （12人）、カラオケ（17人）
12月	もちつき、五目並べ大会、 クリスマス会	大掃除	
30年1月	祝賀会、すき焼き会	園内清掃 不在者投票	初詣三社参り（28人）
2月	節分豆まき、ふく贈呈式、 ミニ運動会	布団乾燥	
3月	ひな祭り、神社庁慰問 開設記念、お花見	避難訓練 陽光苑合同研修	
毎月	誕生会、座談会、図書館利用、理髪、カット	他	

## (2) クラブ活動

外部講師によるクラブ活動を月2回実施したほか、園内での生活が単調になることを防ぎ、日中活動に張り合いがでるよう、娯楽クラブとして様々な趣味的活動を支援した。

名 称	平均参加人数			指導者/担当	職員	実施状況	備 考
	男	女	計				
陶芸	2	4	6	外部	2	月2回	
お茶会	5	10	15	外部	2	月2回	
踊り	5	8	13	外部	6	月2回	
カラオケ	4	5	9	職員	2	週2～3回	
ぬり絵等	3	6	9	職員	3		※1
学習	4	6	10	職員	1		
健康体操	5	5	10	職員	1	随時	
ハイキング	2	2	4	職員	5	年2回	※2
映画（ビデオ）	6	3	9	—	—	月1回	

※1 ぬり絵、カレンダー、行事の飾り付け、行事の練習、折り紙、ウェス等作成など

※2 吉母海岸

### (3) 作業の状況

作業名	平均参加人数		実施状況	内容
	男	女		
全員作業	全員	全員	月1回	園内清掃、除草など
ポイント制作業※	4	2	月2回	園内清掃、除草など
農作業	4	3	随時	地域交流をめざして、一部の入所者と共に年間を通じて農作物の栽培に努めた。畑で玉ねぎ、さつまいも、じゃがいも、ゴーヤ、トマト等の野菜やスイカ、メロンも育てて収穫し、収穫量が多いものは、給食材料で使うことができた。また、敷地内で収穫できる梅、びわ、銀杏を材料に、梅シロップ、梅干、コンポート作りなどを行った。これらの収穫物は、クラブ活動講師や近隣住民へ配布したほか、文化祭等で販売し好評を得ることができた。
園芸作業	4	3	随時	園内の草取りや剪定、花壇ではチューリップ、水仙、ナデシコ等を植え、環境美化に努めた。

※入園者に参加する動機付けとしてポイントを付与している。ポイントとは、利用者の活動に対して点数を付与するもので、8点貯まると缶ジュースや希望する品を提供している。

### (4) 職場体験

就労意欲のある入園者については、地域のリネン会社である東洋ランドリーの協力を得て、2人が週5回、継続的に職場体験へ行っている。

また、他の3人は週3回1時間程度、陽光苑のトイレ、廊下清掃作業を行った。各施設から喜ばれることで、やりがいを感じる活動となっている。

### (5) 健康管理について

健康管理については、以下の定期検診を行った。平成29年度はインフルエンザが大流行したが、当園での罹患者は出なかった。

ア 嘱託医による定期検診（毎月）

イ 定期採血（半年に1回） 下関病院付属地域診療クリニック

※必要のある人は1か月おき

ウ 胸部エックス線間接撮影（年1回） 下関市医師会病院

エ インフルエンザ予防接種（11月） 下関病院付属地域診療クリニック他

オ 肺炎球菌ワクチン（対象年齢者） 黒川内科及び受診機関

### (6) 地域交流について

各種慰問団体の受け入れ、盆踊大会、地域文化祭出展に職員も含めて積極的に参加した。また、自治会主催の吉見地区清掃活動であるクリーン作戦（11人）、古宿

海岸ピカピカ作戦（4人）にも継続して参加した。地域の一員としての意識を持つことができる貴重な機会となっている。

(7) 利用者の希望、要望について

直接入園者全員との情報交換のため、毎月2回座談会を実施した。このほか、入園者の意見や要望を収集するため、施設内に意見箱を設置している。要望の多くは、食べたいメニューに関するもので、給食に取り入れて対応した。行事に関しては、旅行先の希望が大半で、旅行計画を立てる際の検討材料とした。意見としては、他の入園者への日常的な苦情であることが多く、それぞれの原因を調査し、トラブルに発展しないよう解決に向け対応策を取っている。意見、要望等に対する回答や対応は座談会で行い、その内容を文書化して掲示版に表示した。

## 【VI】 下関市陽光苑

### 1. 概要

下関市陽光苑では、老人福祉法の理念にのっとり、入所者が心身の健康を維持し、生きがいを持ち健全で安らかな生活を送る養護老人ホームと、介護が必要な方だけではなく、要介護認定を受けていなくても65歳以上の方なら誰もが利用することができる老人デイサービスセンターを運営している。

### 2. 収支状況

事業活動による収支差額は、11,166,187円、施設整備等による収支△1,897,457円、その他の活動による収支△9,056,300円となった結果、当期資金収支差額212,430円を次年度に繰り越した。

## 第1 養護老人ホーム

### 1. 概要

平成29年度は、新入所者12人、退所者17人と退所者が多かったものの、平均入所者数は、110.4人/月と前年(110人/月)と比較し僅かに増加した。

年度末にかけて退所者の増加が見られたが、退所事由の大半は重度介護による施設移行や死去によるものであり、数年来進めている適切な介護保険サービスや医療保険サービスの導入と生活支援密度の向上の効果が感じられた。

処遇においては、入所者個々に応じた介護保険サービスの提供に重点を置き、介護保険サービスの積極的利用に取り組む中で、併設デイサービスセンターや外部事業所との連携強化に努め、入所者の情報を共有する体制作りを行った。これらの情報を活用することで、日常生活支援の見直し、強化に取り組んだ。

事故防止については、転倒事故防止を目的とし、時間帯や場所別に転倒事故の集計を行い、リスクの高い時間帯を明確にすることで職員配置に工夫を行った。

老朽化した備品や付帯設備については、市との更新計画に関する協議を継続的に行うとともに、設備では、厨房下処理室及び浴室待合室のエアコン、ガス乾燥機の更新を行い、調理、浴室の衛生環境保持に努めた。また、防犯対策・事故対策として玄関前の防犯カメラの増設を行った。

下関市生活支援短期宿泊助成事業については、1人の緊急的な受け入れに対応した。短期宿泊中の良好な環境提供に努めた結果、利用終了後は陽光苑へ入所となった。

下関市権利擁護を要する高齢者短期宿泊事業の利用者は無かったが、職場内外の研修会に参加し、高齢者虐待の防止や対応について専門知識の習得に努めた。



## 2. 入所者の状況

(1) 月別入所者数（各月 1 日現在）（単位：人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均／計
入所者数	109	109	111	110	112	114	112	111	112	109	108	108	110.4
入所	2	2	1	2	2	0	0	1	1	0	1	0	12
退所	2	0	2	0	0	2	1	1	3	1	1	4	17

※入所者数合計 1,325 人（28 年度：月平均 109.5 人）

※退所者内訳：死亡 4 人 長期入院 9 人 他施設入所 3 人 在宅復帰 1 人

(2) 措置機関別入所者数（平成 30 年 3 月 31 日現在）（単位：人）

措置機関	下関市	宇部市	長門市	萩市	小国町	合計
人数	93	1	9	1	0	104

(3) 年齢構成（平成 30 年 3 月 31 日現在）（単位：人）

区分	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90 以上	合計
男性	0	9	14	16	8	2	1	50
女性	0	6	6	11	15	12	4	54
計	0	15	20	27	23	14	5	104

※最高齢者 男性 94 歳 女性 97 歳 平均年齢 77.7 歳（男性 75.1 歳 女性 80.2 歳）

(4) 在所期間（平成 30 年 3 月 31 日現在）（単位：人、年）

区分	1 年未満	1～3 年	3～5 年	5～10 年	10～15 年	15 年以上	合計	平均
男性	7	8	10	12	8	5	50	6.6 年
女性	4	12	8	20	7	3	54	6.6 年
計	11	20	18	32	15	8	104	6.6 年

## 3. 処遇の状況

平成 29 年度は、開設 25 周年にあたり、開設記念行事としてマジックショーの招聘や入所者と記念のメッセージボードの共同制作、過去の写真の展示など趣向を凝らした催しを行った。また、各種慰問の受け入れを積極的に行い、施設内での楽しみ作りと外部交流の機会の増加に努めた。

入所者の機能訓練については、軽度要介護者の機能訓練の場として、お達者クラブを頻回に開催するとともに、歩行訓練、知能リハビリのための日本一周クラブの活動を継続して行った。お達者クラブについては、平成 30 年度に老人福祉施設協議会相互研修会での発表を控えており、音楽療法や目的別の軽運動、回想法を専門的に学び、活用した。また、その他のクラブ活動についても、参加状況は例年並みであったが、担当職員配置や活動内容を見直した。

処遇においては、ケアプランに沿った支援の提供とともに、特に身体機能が低下

した入所者に対しては、積極的に介護保険サービスの導入を行った。併設デイサービスセンターを利用した機能訓練機会の増大や、適切な介護機器導入、訪問介護サービスの利用による機能維持と事故防止に努めた。また施設職員と介護保険事業者間のコミュニケーションに留意し、相互に情報交換を行うことで、入所者に対して、より安心で安全な質の高い支援、サービスの提供を行った。

その他、認知症や精神疾患を有する入所者への対応については、入所者個々の状態に応じ、医療機関と連携し、認知症対応型のデイケア、精神科デイケアを利用した。

衛生管理面では、毎年継続して行っている感染症等の予防活動に努めた。しかしながら、インフルエンザの全国的な流行に伴い、平成30年2月～3月に渡って、入所者や職員間にインフルエンザが蔓延し、入所者20人、職員10人のインフルエンザ罹患が発生した。インフルエンザ発生後は、適時、勤務体制や行事体制の変更、及び感染対策の強化を実施することで、重篤者が発生することなく施設を運営することが出来た。

地域貢献事業としては、慰問の積極的な受け入れを行った。平成29年度は、楽しみ作りの慰問のみではなく、医療機関の健康講座を招致して入所者の意識啓発にも努めた。

また、地域への還元として、毎年行っている妙寺ふれあい夏祭りの地区共同開催、敬老祝賀会への地区高齢者の招待、地区クリーン作戦への参加、慰問時の地域住民や近隣施設入所者の招待に継続して取り組んだ。

また、各種研修会に参加し研修報告会を行うとともに、ふくしSOS事業の研修では職場全体へ事業の理解、意識共有に努めた。

(1) 年間行事等

年 月	行 事 名
29年4月	身長体重測定、ポエム大会、居室消毒、自治会役員会
5月	園遊会、地震想定避難訓練、緊急連絡網訓練、害虫駆除剤散布、地区清掃参加、芋苗植え
6月	衣類百均販売、日帰り旅行（福岡方面）、夏物衣類購入レクリエーション
7月	施設消毒、夏祭り（地区自治会共同開催）、屋上清掃、自治会役員会、梅花園との合同研修会
8月	盆供養、梅花園夏祭り参加
9月	敬老祝賀会（地区招待）、彼岸供養、ポエム大会、胸部X線撮影、自治会役員会、梅花園との合同研修会
10月	昼間想定避難訓練、自治会当番慰労会、市老協協演芸大会、衣類百均販売、芋掘り（豊浦分室との交流）、県グラウンドゴルフ大会、吉見地区地震津波避難訓練参加
11月	焼き芋大会、開設記念祝賀会、吉見地区文化祭、インフルエンザ予防接種、芋掘り、冬物衣類購入レク、自治会役員会、事業団研修会、蒲鉾祭り

12月	クリスマス年忘れ会、クリスマスイルミネーション
30年1月	新年祝賀会、書き初め大会、どんと焼き
2月	豆まき、針供養、バイキング食、ふくの日慰問、不在者投票
3月	ひな祭り、彼岸供養、夜間想定避難訓練、自治会当番慰労会、 神社庁健康祈願、自治会役員選挙、出前講座（生活習慣病）
毎月	誕生会、喫茶、外出レクリエーション、施設内レクリエーション、選択食、 クラブ活動

(2) クラブ活動

(単位：人)

クラブ名	平均参加数			指導者	実施状況
	男性	女性	計		
大正琴	0	5	5	外部	月2回程度実施
陶芸	2	4	6	外部	月1回程度実施
カラオケ	12	8	20	職員	月2回程度実施
グラウンドゴルフ	8	1	9	職員	月1回程度実施
絵画	10	15	25	外部	月1回程度実施
施設内外作業	12	15	27	職員	月1回程度実施
日本一周クラブ	13	15	28	職員	月1回程度実施
お達者	5	25	30	職員	ほぼ毎日実施

(3) ボランティア受け入れ状況

月 日	団体名・内 容
4/2	琴鶴会（大正琴）
6/29	音楽工房ひだまり（コーラス）
8/5	ドルチェおんがくひろば（歌）
8/10	下関市吹奏楽団（吹奏楽）
8/14	ミニコンサート（オルガン）
8/28	ミニコンサート（歌）
9/21	尺八演奏（尺八）
11/13	ミニコンサート（フルート）
11/25	山口マジッククラブ（手品）
12/9	あかね会（大正琴）
1/7	竜岡カラオケクラブ（カラオケ）
2/9	ふく連盟（ふく刺寄贈）
3/8	済生会豊浦病院（出前講座：生活習慣病）
3/26	神社庁（健康祈願・餅寄贈）

- (4) 下関市権利擁護を要する高齢者短期宿泊事業、下関市生活支援短期宿泊助成事業  
下関市から委託を受け、権利擁護を要する高齢者（高齢者虐待を受けた高齢者  
で、在宅での生活が困難な者）、及び生活支援を要する高齢者（在宅での生活が一  
時的に困難であり生活指導等の各種サービスの提供を要する者）について、短期  
間受け入れる事業を行った。

利用実績（※利用実数 1 人）

（単位：人、日）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
利用人数	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
利用日数	0	0	0	1	13	0	0	0	0	0	0	0	14

- (5) 健康管理について

入所者の健康管理のために、次のことを行った。

- ア 嘱託医による定期検診（毎月）
- イ 胸部エックス線間接撮影（年 1 回）
- ウ インフルエンザ予防接種（年 1 回） 江藤病院
- エ 基本健康診断（年 2 回） 江藤病院

## 第 2 デイサービスセンター

### 1. 概要

介護保険の利用者は、上半期は 10.63 人／日であったが、下半期は入院者の増や併設施設の利用者の退所等があり、利用者が減少して 8.99 人／日となり、年間平均利用者数は 9.82 人／日となった。

平成 29 年度をもって事業が終了となる介護予防通所介護の利用者が、介護予防・日常生活支援総合事業へ移行して利用者数が減少したことを含め、地域密着型通所介護の利用者も減少し、前年度の 12.0 人／日より減少となった。

平成 30 年度の介護保険法改正を前に、各種研修会へ参加するとともに、運営方針や職員配置について検討を行った。また、併設施設からの利用者の増加を図り、併設施設との意見交換会を開催し、連携強化と情報共有に努めた。

### 2. 利用の状況

#### (1) 地域密着型通所介護事業及び介護予防通所介護事業

介護保険の要介護者及び要支援者を対象とした制度であるところから、ケアプランを基に通所介護計画を作成して各事業による介護サービスを提供した。移動、入浴、排泄、食事といった日常生活上の介護の提供はもとより、転倒や誤嚥事故防止を目的とした機能訓練、口腔ケアを提供し、利用者の体調維持や心身機能維持に努めた。

利用者の大半は併設施設である陽光苑の入所者であるため、併設施設職員との

連携強化に重点的に取り組むことで、支援体制の強化と情報共有の体制を整備した。

地域の利用者に対しては、在宅生活でのアドバイスを定期的に行うほか、在宅を想定した火災及び地震想定避難訓練を実施し、地域での生活の継続を側面的に支援した。

地域密着型通所介護においては、地区の代表や民生委員、利用者、地域包括センター職員の参加のもと、年2回の運営推進会議を開催し、地域高齢者の状況や地域資源の情報交換のほか、デイサービスセンターの体制及び活動の紹介を行った。

介護予防通所介護については、本年度をもって対象利用者は介護予防・日常生活支援総合事業における第1号通所事業（予防給付型）へ移行することとされ、利用者への説明を適時行い、地域包括支援センターとの連携にて円滑に移行することができた。

地域密着型通所介護（平成29年度登録者数：32人）（単位：人）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
29	182	187	212	218	227	192	212	191	155	166	166	178	2,286
28	206	201	213	200	230	207	194	210	193	183	180	203	2,420
27	158	134	160	185	173	173	177	178	188	150	180	199	2,055

介護予防通所介護（平成29年度登録者数：7人）（単位：人）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
29	22	22	21	16	15	4	7	2	1	1	0	0	111
28	47	46	50	47	45	38	42	43	39	36	41	29	503
27	43	40	44	46	40	42	53	47	47	52	53	56	563

## (2) 介護予防・日常生活支援総合事業における第1号通所事業

下関市介護予防・日常生活支援総合事業実施要綱により、本年度から開始された事業である。予防給付型は、要支援者を対象に、従前までの介護予防通所介護事業と同様のサービスを提供する事業であり、生活維持型は、介護保険の認定を受けていない方を対象に、介護予防を目的に心身の機能や日常生活での活動を維持出来るようサービスを提供する事業であり、次のとおり実施した。

### ア 予防給付型

従来の介護予防通所介護利用者は、平成29年度中の介護保険更新時期に合わせて、介護予防通所介護の利用から予防給付型の利用へ移行することとなり、当事業所も年度内に全利用者の移行が完了した。

引きこもりによる要介護状態になることを予防するため、介護予防サービス支援計画書に沿った活動を行い、心身の機能維持を図るサービスを提供した。

具体的には、ストレッチ運動や軽体操、及び口腔体操などの機能訓練を行う

とともに、各種レクリエーションを企画し、楽しみながら残存能力の維持、向上を図れるようサービス提供に取り組んだ。

予防給付型（平成 29 年度登録者数：8 人）（単位：人）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	0	4	7	15	22	23	26	21	19	27	29	193

#### イ 生活維持型

機能訓練とともに地域での安定した生活を維持していくことを目的に、介護予防サービスの支援計画書に沿ったストレッチ運動や軽体操、口腔体操及び各種レクリエーションなどのサービス提供を行うとともに、利用者の引きこもりの解消と社会性の喪失防止に努めた。

生活維持型（平成 29 年度登録者数：4 人）（単位：人）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
10	9	10	10	7	10	9	10	9	10	10	8	112

#### (3) 生きがい支援通所事業

自主事業として、介護保険の認定を受けていない方を対象に、閉じこもりの解消や楽しみの提供を目的としたサービス提供を行う事業であるが、平成 29 年度中の実績は 0 人であった。また、本年度より開始された介護予防・日常生活支援総合事業の生活維持型が、利用対象者や提供するサービス内容ともに、生きがい支援通所事業に類似したものである事から、平成 29 年度をもって事業を終了する。

生きがい支援通所事業（平成 29 年度登録者数：0 人）（単位：人）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
28	1	2	1	0	0	2	1	2	2	2	1	0	14
27	6	4	4	4	2	4	6	4	3	1	2	2	41

### 3. 主要行事等

利用者が健康で生きがいをもった在宅生活を継続していけることを念頭に、機能訓練やレクリエーションに取り組んだ。

レクリエーションにおいては、利用者が主体となれる活動に試験的に取り組んだ。具体的には、手芸等の得意分野では、利用者に先生役を担ってもらったり、利用者主導で季節の飾り付けを担っていただいたりと、利用者が役割と責任をもってデイサービスを利用できるような環境作りに配慮した。

機能訓練については軽体操、口腔体操を継続して実施した。その他にも数種類の機能訓練を準備し、利用者個々の希望や状態に寄り添いながら、無理のない範囲で小グループでの機能訓練に取り組んだ。職員は利用者との積極的なコミュニケーションの中で意向を伺うことで、活動がマンネリ化しないよう、また、やる気を引き

出せるよう様々な提案をすることに留意した。

主要行事

毎月	誕生会
4月	季節の飾り付け
5月	地震想定避難訓練
6月～7月	七夕飾り作り
10月	火災想定避難訓練
12月	クリスマスツリーの飾り作り
1月	正月飾り作り
2月	節分の豆まき
3月	神社庁による健康祈願祭

## 【Ⅶ】 ふくふくこども館

### 1. 概要

ふくふくこども館は、当事業団とNPO法人下関子ども子育てネットの2者による共同事業体「下関こども未来創造ネット」により管理運営を行っている。

平成29年度は、5年間の指定管理期間の初年度に当たり、事業計画に沿って着実に業務を遂行するとともに、各団体や個人との連携を基に子育て家庭支援事業と地域活力増進事業をより充実させることを意識し、職員が一体となって運営に当たった。

利用者は、約20万3千人を超え、単に親子の遊び場としてだけでなく、ふくふくこども館が子育て支援の拠点として市民に定着し、賑わいを創出している。

### 2. 収支状況

事業活動による収支差額は、4,313,474円、施設整備等による収支0円、その他の活動による収支△3,607,550円となった結果、当期資金収支差額705,924円を次年度に繰り越した。

### 3. 利用の状況

年間目標数である12万人を大幅に超える203,865人の利用があり、利用者のリピーター率も高い。ふくふくこども館の存在が市民に定着し、事業内容の工夫を含め利用促進に努めた結果であると言える。なお、多目的室及びこども一時預かり室の使用許可申請に係る不許可件数は、0件であった。

場所別利用者数内訳

(単位：人)

場 所	平成29年度	平成28年度	平成27年度
プレイランド	122,583	138,709	137,611
多目的室	8,174	9,171	11,384
こども一時預かり室	1,039	1,008	905
交流スペース・屋上	72,069	37,741	36,879
合 計	203,865	186,629	186,779

#### (1) プレイランド

プレイランド利用者は、122,583人で、前年度を約1万6千人下回った。これは、大型連休や年末年始などの繁忙期が好天で、同時期のプレイランド利用者が4割、人数で5,400人程度の減少したことが大きく影響している。

プレイランド利用者数内訳

(単位：人)

内 訳	平成29年度	平成28年度	平成27年度
大人	61,970	70,374	69,962
未就学児	56,330	63,528	62,574
その他の子ども	4,283	4,807	5,075
合 計	122,583	138,709	137,611



## (2) 多目的室

貸室としての利用は170件（うち減免25件）であった。団体での利用が多く、内容は講座の開催、会議の会場、幼稚園や保育所の遠足等による休憩場所などである。貸室利用以外に、館の企画として利用者ニーズに合わせたイベントを多目的室で展開することで、利用促進に取り組んだ。

### 多目的室利用実績

（単位：件、時間、人）

内訳	種類	貸室利用（うち減免）	事業利用	指定管理利用	合計	28年度	27年度
件数	全	35（18）	64	6	170	173	249
	大	28（2）	1	1			
	小	34（5）	0	1			
時間	全	147（75）	222	15	560	671	874
	大	66（5）	2	2			
	小	104（11）	0	2			
人数	全	1,322（818）	5,658	85	8,174	9,171	11,384
	大	597（33）	62	11			
	小	437（111）	0	2			

## (3) こども一時預かり室

4月から平日1人1時間600円を500円になど、利用料金の引き下げを行い利用し易くしたことから、利用人数、利用時間とも増加傾向にあり、7割近くが継続利用者である。利用時間数も最大3時間での利用が半数を超え、保護者が安心して子どもを預けていることが分かる。

1、2歳児を預ける家庭が多く、買物やリフレッシュなど、子育て中の母親が子どもを一時的に預ける先として、定着してきた。

### こども一時預かり室利用実績

（単位：人）

年度／年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	合計
平成29年度	70	316	307	145	93	76	32	1,039
平成28年度	115	324	229	183	87	50	20	1,008
平成27年度	112	250	193	176	101	52	21	905

### こども一時預かり利用時間数実績

（単位：時間）

年度／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成29年度	207	164	199	198	216	180	215	282	294	229	202	220	2,606
平成28年度	125	130	145	162	208	258	229	207	207	281	199	253	2,404
平成27年度	100	163	193	173	196	149	154	135	141	137	188	198	1,927

## (5) 相談室業務

相談件数は、前年度と比較すると横ばいであるが、個別の案件が増加している。

トイレトレーニングや赤ちゃんお食事会などのイベントを仕掛けることで、そこからの悩みなどの相談につなげるなどが効果として表れている。電話による件数も増となっている。

また、継続的な相談が増え、相談内容も複雑化しており、ふくふくこども館だけで抱えておけないような相談ケースもあり、他機関との連携の重要性を感じた。

市と定期的な相談連絡会議では、継続的に関わっていく支援のあり方について検討を行い、職員間でのミーティングも増やし、サポート体制の充実を図った。

相談受付実績 (単位：件)

相談方法	巡回	個別	電話	メール	その他	合計
平成 29 年度	259	126	87	0	6	478
平成 28 年度	404	40	19	5	2	470
平成 27 年度	593	72	26	3	25	719

#### 4. 管理の状況

##### (1) 管理運営及び事業の実施状況

利用者が安心して快適な利用できるように、館内の環境整備を徹底し、安全管理だけではなく、職員一人ひとりが利用者きめ細かな対応に心掛けた。

利用者からは、プレイランド入場制限（小学生入場規制）に対する不満、駐車サービス券の常時配布を望む意見があった。

プレイランドの小学生の入場を希望する声には、未就学児対象の遊び場としての施設であることを説明し、駐車サービス券配布については、残量を見ながら平日配布を実施し、利用促進につながるよう工夫をした。

円滑な運営を行うために、共同事業体の意思決定機関である運営委員会を年4回開催したほか、市との連絡調整会議を定期的に隔月で開催したほか、第三者から意見を聴収する運営協議会も2回開催した。

また、年間の事業プログラムは、企画内容の充実を図り実施しており、職員はもとよりボランティア、市民活動団体や大学、企業からの協力を得て、幅広いプログラムを実施することができた。市内外からの視察も19件あり、子育て支援施設の運営方法や運営費、事業内容について関心が高いことがうかがえる。

##### (2) 維持管理業務

###### ア 施設設備管理業務

利用者の快適性を維持するよう職員の日常的なチェックによる設備管理をはじめ、専門業者による機器点検を実施し、使用上の不具合があった場合には適切に対応するよう努めた。また、展示造作物や大型遊具は、制作業者による年1回の保守点検と調整を行い、不具合箇所については修繕して対応した。

###### イ 保安警備業務

職員による巡回及び声かけ、駅ビル防災設備管理室スタッフとの連携により、不審者や犯罪、火災等危険を未然に防ぐよう努めた。

#### ウ 清掃業務

乳幼児が利用することから、特に衛生状態には配慮し、日々の業務の中で職員が清掃や消毒を行うとともに、業者による日常清掃及び定期清掃を実施して、美観と快適性を維持した。

#### エ 駐車サービス券配布及び管理

駐車サービス券を事業運営のために活用するほか、平日プレイランド利用者に対して配布し、利用促進につなげた。駐車サービス券は台帳で管理し、残量報告を適切に行った。

#### オ 修繕等

昨年度まで、夏場の繁忙期にエアコンを全力運転してもプレイランドの室温が下がらず対策に苦慮していたため、7月にプレイランドに8台の扇風機を設置した。空気の循環が良くなり、風が当たることで、利用者が過ごしやすくなった。そのほか、建築物、機器設備、部品交換、遊具等の不具合箇所について、適宜修繕を行った。

#### カ 管理組合及び管理会社との協力

駅ビル全体の消防避難訓練に参加したほか、必要に応じて連絡調整を行い、駅ビルの運営に係る協力体制を確保するよう努めた。

### (3) 職員配置、研修

#### ア 職員配置

常時10人以上の職員を配置し、管理運営業務を適正に執行した。また、土日祝日や夏休み等、イベントや研修開催時などの繁忙期には十分対応できるよう通常以上の人員を配置した。

#### イ 研修

平成29年度研修計画に基づき、フォローアップ研修等を実施した。また、相談業務においては、市こども保健課と定期的な情報交換会を行うことで連携が強化でき、利用者サポートの充実に努めることができた。

### (4) 安全管理、緊急時の対応

#### ア 応急救護

応急救護対応の多くは打撲（接触や転倒）であり、アイシングで対応する程度の軽症であった。そのほか、段差による転倒、のぼせによる鼻血や嘔吐などがあったが、必要に応じ救急搬送などにより対応した。

#### イ 災害緊急時対応

自然災害時の安全運営の対応として、利用者の安全を第一に市と緊密に連携を取り、スタッフの配置や待機連絡、利用者への広報告知も含めて対応した。

## 5. 基本事業の実施状況

平成29年度の事業計画に基づいて、事業を実施した。

### (1) 基本事業実績

(単位：回、人)

種別項目	事業項目	プログラム数	実施回数	人数		
				大人	子ども	合計
交流の場提供 ・促進事業	クリエイティブプログラム	9	970	19,524	19,421	38,945
	アクティブプログラム	6	60	799	810	1,609
	いのちふれあいプログラム	2	7	199	203	402
子育て相談・ 援助事業	一般子育て相談・指導	1	309	432	0	432
	専門相談	2	18	33	22	55
子育て情報 発信事業	子ども・子育て情報収集・ 発信	3	645	—	—	—
	子育てに関する市民団体の 情報発信の場の提供	0	0	—	—	—
子育て支援事業	子育て・親育ちプログラム	17	77	1,868	2,010	3,878
	大規模子育てイベント	1	1	1,191	1,191	2,382
子育て拠点事業	子ども一時預かり機能	1	309	0	951	951
	ボランティア、サポーター の育成	0	0	—	—	—
地域活力 増進事業	地域交流の促進	1	4	11	11	22
	ボランティア、サポーター の支援	2	11	222	320	542
	他機関との連携事業の企 画・実施	6	14	954	979	1,933
	郷土文化ふれあいプログラム	2	5	257	270	527
利用推進事業	幅広い広報活動	4	1,041	—	—	—
合計		57	3,471	25,490	26,188	51,678

### (2) 基本事業の主な活動事例

#### ア 遊び・体験学習事業

「音あそび」「写真撮影コーナー」など職員による手作りコーナーを充実させ、季節感のある親しみやすい環境づくりを行った。また、「屋上であそぼう」「おひさま農園」「gogo アニマル」などの開放的な空間づくりや、外部講師を招いた「はじめての教室」など、多彩な教室開催を展開した。

#### イ 子育て家庭支援事業

主に未就園児とその保護者に向けた事業を展開した。親子で楽しめる「ぷくぷくひろば」や「えいご☆だいすき」など、職員の特技を発揮する事業展開ができた。

また、大規模子育てイベント「ふくふくフェスタ2017」では、近隣の商業施設の協力も受け、盛大に開催した。

ウ 地域活力増進事業

企業やボランティア活動団体などと連携し、子育てに関連するイベントを取り入れ、こども館だけではなく、近隣施設への賑わいとなるよう取り組んだ。

エ 郷土文化伝承事業

日本の伝統行事を取り入れたイベントを開催した。

オ 利用推進事業

様々なイベントや広報活動を通じて、利用促進を図り、テレビ取材など各種メディアの露出に努めた。

また、ホームページ閲覧がスムーズにできるようホームページの構成を全面的にリニューアルし、スマートフォンでも見られるように改善した。

メディア内訳件数

(単位：件)

内 訳	新聞	雑誌・情報誌	ラジオ	テレビ	ウェブ	市報	合計
平成 29 年度	12	21	0	9	11	17	70
平成 28 年度	18	20	3	14	1	21	77
平成 27 年度	35	9	4	11	1	12	72

6. 自主事業の実施状況

基本事業に加えて、未就学児だけでなく、小学生や子育て中の親、祖父母等、幅広い利用者を対象とした事業を展開した。

(1) 自主事業実績

種別項目	事業項目	プログラム数	実施回数	人 数		
				大人	子ども	合計
交流の場提供・促進事業	本格！ものづくりプログラム	3	21	289	378	667
	本格！習い事プログラム	1	8	65	62	127
子育て支援事業	プレママタイム	0	0	0	0	0
	ベビータイム	2	23	122	125	247
	ママタイム	1	15	66	40	106
	パパタイム	1	1	14	17	31
地域活力増進事業	プロフェッショナル連携プログラム	2	2	160	190	350
	地域子育て力底上げプログラム	0	0	0	0	0
	郷土文化ふれあいプログラム	2	2	52	68	120
利用促進事業	利用者の利便性の向上	2	618	0	0	0
	子育て家庭応援プロジェクト	2	333	276	185	461
合 計		16	1,023	1,044	1,065	2,109

(2) 自主事業の主な活動事例

ア 遊び・体験学習事業

プレイランドに入れない小学生が楽しめるプログラムとして「手づくり工房」を開催するなどの工夫をし、多くの参加があり好評を得ることができた。

イ 子育て家庭支援事業

ママタイムの参加希望が多いため回数を増やし、より充実したプログラムを提供した。

ウ 地域活力増進事業

平成29年度は、近隣の商業施設や企業の協力が拡大し、多彩な事業が展開できた。「ハロウィンパレード」は、前年度より規模が拡大し、商業施設のイベントとあわせて多世代での交流の場となった。

## 【Ⅷ】 下関市こども発達センター診療所

### 1. 概要

こども達の発達支援に係る診療等を行う診療所は、医師による診察や行動観察のほか、心理士による発達検査等に力を入れている。

とりわけ新規患者には、原則として診療時間を1時間程度確保するなどし、障害の程度を慎重に見極めるようにした。診察結果をもとに適切な治療を行い、発達支援の必要な児童について下関市こども発達センターをはじめとする市内の児童発達支援事業所の発達支援、訓練、療育等が受けられるように紹介した。

### 2. 収支状況

事業活動による収支差額は、1,609,400円、施設整備等による収支△1,222,560円、その他の活動による収支△386,400円となった結果、当期資金収支差額440円を次年度に繰り越した。

### 3. 診察の実績

#### (1) 診療日数及び患者数

(単位：日、人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数	14	17	16	14	14	14	16	16	16	14	15	14	180
総受診者数	162	217	188	188	181	164	182	169	158	141	145	182	2,077
新患人数	24	16	16	11	13	14	17	11	8	9	9	8	156

#### (2) 療育機関への紹介等

新規患者156人のうち22人についてはすでに療育を受けており、療育を受けていなかった134人のうち療育の必要性が認められた56人について、下関市こども発達センターをはじめとする療育機関等で療育が受けられるように紹介を行った。

\* 平成29年度事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の附属明細書は作成していない。